

2020 年度 人文学類卒業生アンケート結果について

人文学類 FD 委員会

人文学類 FD 委員会では、2020 年度に実施された卒業生アンケートの結果を公開いたしますとともに、問題点や課題を明らかにすることで、人文学類における今後の教育改善に向けて役立てていただきたいと思います。

アンケート実施時期： 2021 年 3月22日～31日

対象学生数： 人文学類 2020 年度卒業予定者 139人

回答者数： 72 名（回答率 52%）

2020 年度の人文学類卒業生アンケートは、学類の学位記伝達式を行うことができたことで、前年度の回答率（16%）から大幅に改善することができたものの、新型コロナウイルスの影響で祝賀会等を行えず、良好な回答率というまでには至っていない。前年度同様に、学類としての総計データに基づいて分析をおこなうこととする。

表 2020 年度卒業生アンケート結果

	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. そう思わない	5. どちらとも言えない	高評価率 (1と2の合計)
Q1 幅広い教養や社会的常識を身につけることができた。	43.1	51.4	5.6	0.0	0.0	94.5
Q2 今後の活動に必要な専門知識や技術の基礎を身につけることができた。	30.6	54.2	12.5	1.4	1.4	84.8
Q3 自ら課題を発見し解決する能力を身につけることができた。	36.1	52.8	8.3	2.8	0.0	88.9
Q4 様々な状況に対応するコミュニケーション能力を磨くことができた。	33.3	52.8	9.7	2.8	1.4	86.1
Q5 プレゼンテーションの能力を磨くことができた。	22.2	51.4	16.7	8.3	1.4	73.6
Q6 異文化に関する理解力を高め、異なる視点から諸事象を把握する能力を身につけることができた。	33.3	41.7	19.4	2.8	2.8	75.0
Q7 人間や社会のあり方を論理的に理解する能力を身につけることができた。	30.6	65.3	1.4	2.8	0.0	95.9
Q8 人間や社会の諸問題を、歴史的背景をふまえて把握する能力を身につけることができた。	33.3	44.4	16.7	4.2	1.4	77.7
Q9 文献や文学作品の読解力を高め、ことばに対する感性を養うことができた。	38.9	36.1	18.1	4.2	2.8	75.0
Q10 全体として、金沢大学人文学類で学んだことに満足している。	56.9	33.3	6.9	1.4	1.4	90.2

2019年度との比較は、回答者数が大きく異なっており（2019年度22名）、また回答者の主履修分野の分布が異なることも考えられるので、慎重に行わなければならないが、総合的な評価である「Q10 全体として、金沢大学人文学類で学んだことに満足している」では、2019年度95.7%、2020年度90.2%と、ともに9割を超えており、とても良い評価を得ていると言える。若干、高評価率が低下しているようにもみえるが、2019年度の回答者が少ないという事情が大きい。

項目全体にわたり、2020年度も良い評価を得ている。2019年度は高評価率（「1. そう思う」もしくは「2. ややそう思う」の比率の合計）で7割を下回る項目が指摘されていたが（Q5、Q8）、2020年度ではそれらも7割を超えている。特に「Q5 プレゼンテーションの能力を磨くことができた」は、過去に同様の問題が指摘されてきた項目であるが、2019年度との比較で8.4ポイント改善した。しかし、Q5は「4. そう思わない」が8.3%（6名）で、他の項目と比べて否定的な回答が目立つ。評価の低い学生に対するケアが依然として課題になる。ただし「プレゼンテーション」というワーディングが発表・報告の特定の形式を想定させていることに起因している可能性もある。

2019年度との比較で高評価率が10ポイント以上変化したのは、「Q7 人間や社会のあり方を論理的に理解する能力を身につけることができた」（82.6%→95.9%）、「Q9 文献や文学作品の読解力を高め、ことばに対する感性を養うことができた」（86.4%→75.0%）となっている。「Q6 異文化に関する理解力を高め、異なる視点から諸事象を把握する能力を身につけることができた」、「Q8 人間や社会の諸問題を、歴史的背景をふまえて把握する能力を身につけることができた」、も同様であるが、これらは特定のコースや分野と結びつきやすい表現が含まれており、回答者のコース・分野の分布に影響されやすい項目である。よって、変化について過大に評価すべきではないと言えるが、これらの学修目標は特定のコースや分野だけで身につけることを目指すものではないことが、いま一度理解されることが望ましいだろう。

「Q2 今後の活動に必要な専門知識や技術の基礎を身につけることができた」では12.5%（9名）の学生が「2. あまりそう思わない」と回答している。人文学類で学ぶ学問内容や知識は、職業や社会活動にすぐに役立つものではないと指摘されることも多いが、その当否はともかくとして、学生の「これから」や「将来」の諸活動、人生に有用な知識や技芸を学んでいるという理解を高めるように、日々の教育活動で工夫していくことが必要だと思われる。